

2025 年 1 月 31 日  
日本銀行決済機構局

C B D C フォーラム W G 2  
「追加サービスと C B D C エコシステム」  
第 9 回会合の議事概要

1. 開催要領

(日時) 2024 年 6 月 25 日 (火) 14 時 00 分～16 時 30 分  
(形式) 対面形式及び W e b 会議形式  
(参加者) 別紙のとおり

2. プレゼンテーション

- 事務局より、「A P I サンドボックスプロジェクトの進捗状況について」の資料<sup>1</sup>に基づいて、プレゼンテーションが行われた。
- BIPROGY 株式会社より、「C B D C エコシステムの世界観の語り合い」の資料<sup>2</sup>に基づいて、プレゼンテーションが行われた。

3. ディスカッション

- BIPROGY 株式会社からのプレゼンテーションを受けて、参加者によるディスカッションを行った。その内容は、以下のとおり。

【エコシステムの構築と継続的な発展】

(プレゼンタ) C B D C のエコシステム構築において重要なポイントは 3 点あると考える。1 点目は、「具体的な検討を進めるために、課題を明確に捉える」こと。エコシステムの目指すビジョンに共感したプレイヤーが集まっただけでは、検討が進まないことが多い。2 点目は、「熱意を持って課題解決に尽力する先導役が必要」なこと。単なるファシリテーターではなく、皆が共感するエコシステムの大きなビジョンを作るとともに、自らが率先して

---

<sup>1</sup> [https://www.boj.or.jp/paym/digital/d\\_forum/wg2/dfo250131b.pdf](https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/wg2/dfo250131b.pdf) 参照。

<sup>2</sup> [https://www.boj.or.jp/paym/digital/d\\_forum/wg2/dfo250131a.pdf](https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/wg2/dfo250131a.pdf) 参照。

課題解決をするという想いをもち、具体的な施策を企画・交渉・実行できるコーディネーターのような存在がエコシステムの構築には必要だろう。3点目は、「エコシステムに参加する事業者が利益を得られる」こと。エコシステムへの参加により収益を得るには時間がかかる可能性があり、各社が継続して関与できるかがポイントとなるが、これが最大の課題だと考える。

(参加者) エコシステム構築における工夫や留意点はあるか。

(プレゼンタ) 最初から大きなことを成し遂げようとするのではなく、小さくとも具体的な課題を設定し、関係者が協力して課題解決を目指す方が、エコシステムを生成しやすいのではないか。こうして生成された小さなエコシステムを組み合わせることで、皆が共感するビジョンに沿った大きなエコシステムを築くことができるのではないか。

(参加者) コーディネーターの手を離れてエコシステムそのものが自走し、様々なアイデアを持ったプレイヤーが自発的にエコシステムに参加する流れを目指していくことも大事だろう。

(参加者) エコシステムの構築においては、C B D Cが発行された社会の世界観を皆で共感することが大事になるだろう。その世界観に共感した企業が更にその他の企業を巻き込み、その結果として世界観が強化され、エコシステムの目指すべき姿やビジョンが形成されていくことが理想である。

(参加者) どのような社会を築いていきたいかといった目指すべき姿やビジョンは、様々な企業が自らの目指すビジョンを示し、議論していくことで形作られていくものかもしれない。

(参加者) エコシステムとして理想的な状態は、参加者が熱意を持って自発的に関与し続けている状態だと考える。こうしたエコシステムが自走する状態を継続させることがコーディネーターの役割かもしれない。

(参加者) 熱意を持った主体が自発的にエコシステムに関わり続ける構図は、「お祭り」に近いのかもしれない。お祭りは、それを立ち上げた時代の人達は既にこの世には存在しなくとも、その熱意や思いが受け継がれることで、継続されてきた。

(参加者) エコシステムのルールを策定し、参加者が活動しやすい仕組みを作ることが重要と考える。エコシステムと一口にいても、その規模は大小様々な単位のものがあるし、国や地域を越えたところにも存在し得る。また、個々のエコシステムが相互に繋がることによって複合的なエコシステムが生まれることもあり得る。こうしたことも念頭において、CBDCエコシステムのルールや仕組みを検討することが重要だろう。

#### 【CBDCエコシステムにおける課題設定】

(参加者) CBDCは、単なる決済手段として活用するだけでなく、伝票番号や伝言を電文上に付加する仕組みがあると良いかもしれない。そのような仕組みをCBDCの基本機能または周辺機能として用意すべきか、もしくは民間事業者が追加サービスとして提供すべきかについては、様々な考え方があるだろう。

(参加者) 紙幣からCBDCへのデジタルトランスフォーメーションによる社会的価値の創出が求められていると考えれば、日本銀行や仲介機関といったインフラ側のエコシステムにとどまらず、エンドユーザー側に生まれる価値を意識する必要がある。

#### 【CBDCエコシステムを担う主体】

(参加者) 一般に、新しいビジネスのローンチに伴う不確実性を解消するためには、個人や企業にリーチして市場性をテストすることが重要だ。CBDCに関していえば、個人や法人の取引先を既に多く抱えている銀行がCBDCの仲介機関になれば、エンドユーザーにリーチするための追加的なコストを節約することができ、各銀行が収益性を確保しつつ、様々な個人や企業がデジタルに繋がるようなエコシステムを構築できるかもしれない。

(参加者) エコシステムの参加者に何かインセンティブが無ければ、エコシステムに継続して参加することは難しいだろう。

(参加者) 継続的にコーディネーターを担うことに対するメリットを見出せなければ、エコシステムに参加し続ける意義を社内で説明することが難しくなる。エコシステムの参加者が持続可能なビジネスモデルを作り出すことが重要である。

(参加者) 日本銀行が追加サービスのあり様を民間に完全に委ねる形では、エコシステムは長続きしないだろう。例えば Apple 社は、App Store を運営し、その上で事業者がアプリを開発してユーザーに提供する仕組みを提供しているが、同社はそこで得られた収益を OS やデバイスといった基盤に近い部分を改善するための投資に回している。C B D C でも同様に、基盤側の改善を継続していくために必要な人的・金銭的資源を確保できる仕組みを構築しても良いかもしれない。

(参加者) これまでのWG 2 では、日本銀行がコーディネーターとしてWG 2 参加者を集め、議論を先導してきたかもしれないが、今後はWG 2 参加者のそれぞれがコーディネーターとしての意識を持ちながら、議論を行うと面白いのではないか。

(日本銀行) 本日も活発に議論いただいたことに感謝する。

#### 4. 次回予定

次回の会合は9月3日(火)に開催。

以 上

C B D C フォーラム WG 2  
「追加サービスと C B D C エコシステム」  
第 9 回会合参加者

(参加者) ※五十音・アルファベット順  
株式会社イオン銀行  
株式会社インフキュリオン  
株式会社ジェーシービー  
セコム株式会社  
ソニー株式会社  
ソフトバンク株式会社  
大和証券株式会社  
東京海上日動火災保険株式会社  
トヨタファイナンスサービス株式会社  
株式会社トレードワルツ  
日本電気株式会社  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
野村證券株式会社  
株式会社野村総合研究所  
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ  
株式会社マネーフォワード  
株式会社みずほ銀行  
三井住友海上火災保険株式会社  
株式会社三井住友銀行  
株式会社三菱 UFJ 銀行  
株式会社メルペイ  
株式会社横浜銀行  
BIPROGY 株式会社  
株式会社 BOOSTRY  
株式会社 NTT データ  
株式会社 NTT ドコモ  
PayPay 株式会社  
株式会社 Startale Labs Japan  
TIS 株式会社

(事務局)  
日本銀行